全学科　　平成２４年度

科目名	哲学 Philosophy			担当教員	森　正幸		
学　年	4年	学　期	通年	履修条件	選択	単位数	2
分　野	一般	授業形式	講義	科目番号	12G04_20300	単位区別	履修

学習目標	世界は大量生産・消費による環境破壊，人口爆発と貧困，ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ経済と諸紛争，ﾃｸﾉﾛｼﾞｰの発達に起因する負の影響など，諸問題が山積している。このような諸問題が即，日常生活レベルと通底していることが極めて現代的特徴であり，今こそクールな情熱と豊かな総合知としての哲学が求められている時代は他にない。豊富な思考資料の下，豊かな試行錯誤を心掛けたい。
進め方	個体発生は系統発生を要約して繰り返す（ﾍｯｹﾙ）と言われるように、個人の精神史と世界のそれとは局面はどうであれ関連している。哲学概説を兼ねて哲学する意味を考えたい。世界内存在としての自己と諸問題、そして哲学的知の拡がりに思いを馳せる。 西洋哲学史を歴史的に鳥瞰しつつ哲学と時代を考察する。(時代を生きること　哲学と人生)

学習内容	学習項目（時間数）	学習到達目標
	１．個人史としての哲学(哲学概説) (4)	自己を形成している精神内容を見つめる眼と 他者理解の態度を涵養する。 A1:3
	２．現代世界の諸問題と哲学(6)	世界の諸問題と世界内存在としての自己。 A1 :4
	３．哲学知のさまざまなあり方(4)	さまざまな知的在り方があること理解する。 A3:4
	４．西洋哲学史概説(12) …神話　ソクラテス以前 ソクラテス, プラトン, アリストテレス ヘレニズム哲学 神学	歴史的変遷によりさまざまな思想が誕生し,時 代の役割を果たした事を知る。 A3:1 境遇の如何に拘わらず教養は人生を豊かにする。 A1:4
	前期期末試験	
	５．答案返却・解答(1)	哲学と科学的思考の不可分性と科学的思考を産 出した西洋哲学の特性について考える。 A1:3
	６．近代哲学と科学的思考そして現代哲学へ(18) デカルト 大陸合理論 イギリス経験論 カント, ヘーゲル, キルケゴール, マルクス ニーチェ　etc	現代哲学の思考特性について考える。 A1:3 混迷の度を深める現代世界，総合知・世界観と しての哲学の重要性を知る。 A1:3-4 世界の偉大な知的伝統の十字路である日本とは何か…。 A1:3-4
	７．現代哲学(6) フッサール ハイデガー	
	８．総合知、世界観としての哲学(4)	
	９．Philosophy と哲学（東洋的形而上学）(4)	
	後期期末試験	
	１０．答案返却・解答(1)	

評価方法	定期試験を主たる評価とし，レポートと平常点（受講態度）を加味する。 意見発表など積極的に授業参加した者に対しては評価をする。
履修要件	特になし。
関連科目	特になし。
教　材	教科書：なし 参考書：ﾖｰｽﾃﾝ･ｺﾞﾙﾃﾞﾝ著「ソフィーの世界」NHK出版 木田　元　著「反哲学史」 講談社学術文庫 木田　元　著「闇屋になりそこねた哲学者」晶文社 西　研　著「大人のための哲学授業」大和書房 竹田青嗣　著「中学生からの哲学『超』入門」ちくまプリマー新書
備　考	テーマによっては映像を使用することもある。